

No. 43

ねじればね

March, 1981

昭和56年3月20日発行
編集者：後藤光男
〒591 堺市百舌鳥西之町1丁目98-2
陵南住宅1号棟116号
電話：(0722)57局7009番

日本甲虫学会
〒658 神戸市東灘区御影山手2丁目19-8
大倉正文方
電話：神戸(078)811局2706番
郵便振替口座 大阪 39672番

ラベル印刷のあれこれ 追補(4)

後藤光男

(j)

本誌に上記の表題で書きはじめたのが27号(昭和44年4月29日付)からで早10年余の月日が経ってしまった。活字押器に極小活字を体裁よく苦勞して組み込み、ローラーでインクを塗りつけて試し刷りに入る瞬間のヒヤヒヤは、活字押器によってデータラベルを印刷した者でないと味えない感触だと思っている。これまで私が扱い馴れた4.5ポイントの活字によるデータラベルの印刷に関してを思いつくままに書いてきたが、その後の印刷界はあらゆる面で急速な進展を見せ写植の普及と小型で簡便なオフセット印刷機によって、活字を使つての活版印刷は一步後退した感じである。しかし活字押器を使つてのデータラベルの印刷では活字の差換えによって採集日付を1枚づつ違える芸当も可能で、使い方によっては他の印刷機では刀ち打ちのできない一面をもっているといつてよいのではないだろうか。

(k)

私は朝日新聞の日曜版に連載されている栃折久美子さんの「装丁ノート」を非常に興味をもって読んでいる。それは我々が日常身近に接しているあらゆる書籍についての製本を中心として書かれているので大変参考になる。今年の1月11日号を見てなつかしい文字に接した。それは私がQ項(本誌29号)で紹介したADANA印刷器で、同じ機械を持つ人たちがアマチュア・プリンターズ・ソサエティーという集まりが結成されていると述べられていた。

(1)

東京通販サービス社の在庫目録No 14 (' 80) で予告があり、No 15-1 (' 81) Feb. 1, 1981-P. 15で産地ラベルの斡旋紹介がされた。タイプ印書、縮小製版で135KG白色上質紙使用の使い手頃で美しいデータラベルの見本も添付されていた。

自分でタイプ印書をした場合の価格は500枚単位でA型(63×85mm. 以内の印刷面)が2,000円(〒300円)、B型(90×130mm. 以内の印刷面)は2,700円(〒400円)で大変割安と思われる。原稿を送ってタイプ印書を依頼した場合は別途実費加算となっており、低い価格で要望にこたえるため月2~3回のまとめ印刷の方法もまことに当を得ているようである。

タイプ印書、縮小製版、印刷についてはM項(本誌28号)で述べたが、戦前の大阪では矢野由雄氏の影響で甲虫屋のラベルはほとんどがこの印書縮小ラベルであった。その後現在の活版印刷ラベルに代ってきたが、今でもタイプ印書ラベルを付した古い標本に出会う折もあり大変なつかしい限りである。

タイプ印書ラベルを作る時に注意をしなければならないことは、タイプライターの活字面がそれぞれ違っていても台座は大文字・小文字・数字・記号等縦・横ともすべて同一寸法である。原稿を作る時、方眼目用紙の1コマづつに字を埋めた通りに印書されるので、スタイルを重視するのであれば初期の段階でよく検討する必要がある。

(m)

最近では複写が日常化してしまったが、ごく最近までの複写は写真機によるか、工業用のアンモニアを使つての青焼きに頼るしかなかった。リコピー以降の湿式から普通紙乾式へと技術も進んで規模の大きい会社にしかなかった乾式複写装置も、この頃では文房具店・印屋やタバコ屋にまで複写装置が備えられており競って廉価でコピーをしてくれる時代となった。昔は苦勞して書き写した文献等も現在の複写装置であると寸分違わず紙のシミまでコピーしてくれて大変便利である。ごく最近の新聞誌上と車内の吊下げ広告で紹介された「縮小もできる高速機、ゼロックス4600」は「縮める、縮める、縮める」のキャッチフレーズで相当強烈に宣伝されて興味をひかされた。縮小もできるゼロックスはこれまで新機種発表会でも見てきたし実際に縮小した見本も貰ったが、あまり関心がなかった。カタログによると縮小機能を具えた機種は3207(縮小率71%、A3→A4、B4→B5)、9200B(縮小率102~61.5%)の2機種が載っていた。勤務先にあるゼロッ

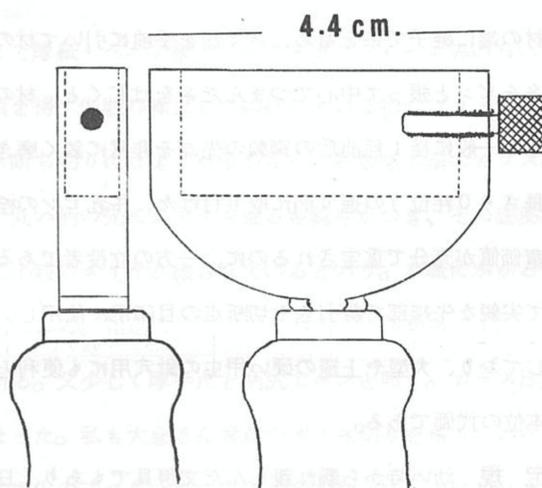
クス2202を3500に換える機会に4600の縮小コピーはどんなのであるのかが知りたくて、担当者に頼んで縮小コピーをしてもらったのを比較したのが次図である。「ゼロックス4600」はA3をB4かA4に、B4をA4かB5に、A4をB5にも縮小できて、縮小率は1:0.816、1:0.696の2通である。試みにB4の用紙一杯に各サンプルを貼り合せてそのままコピーをした原図(A)をB5に縮小して(B)、更にこのB5を2枚合せてB4としてもう一度B5に縮小(C)してみた。サンプルは甲虫ニュースから標本図を、月刊むしから種名ラベルを借用した以外は私が現在標本に付しているラベル類である。コピーであるうえ更にコピーしている関係でやや鮮明を欠くきらいもあるが、縮小種名ラベルの(B)は紙包標本にデータラベルと共に同封すれば最大であろう。複写をする場合どこのメーカーでも指定用紙以外の用紙を使うと「紙づまりの原因になります」と注意書きされているがゼロックスでは110KGまでは十分に鮮明なコピーができるようである。以前に厚手135~150KG白紙では結果はどうだろうかと送りこんだら、すぐ紙づまりとなり煙が吹き出して、あわてたことがある。又私は必要なコピー類は26穴のバインダーへ分類毎に整理してファイルしており、普通ファイル穴はコピーのあとでその都度あけるのが常識である。しかし穴が不揃いでファイルがしにくいから、ゼロックス用紙MタイプのB4版に前もって26穴をあけさせた。ゼロックス3103での経験では時折り紙づまりがあり、その上2枚送りや3枚送りが出てやはり一考を要すると感じた。ゼロックス4600が縮小できる一覧表を参考に掲げておくが、これは最初の縮小を示している。縮小コピーの組合せでの再縮小図については将来身近にこの機種が設置された時点で研究したいと思っている。

ゼロックス4600による縮小寸法一覧表

単位 cm

規 格	B 4 (25.7×36.4)	A 4 (21.0×29.7)	B 5 (18.2×25.7)
A 3 (29.7×42.0)	→ ○	→ ○	
B 4 (25.7×36.4)	→ ○	→ ○	→ ○
A 4 (21.0×29.7)			→ ○

縮小ができるゼロックスについて書いて見たが、ゼロックスによるコピーで注意しなければならないことは、同じサイズの複写でコピーされた方が原稿より少しく伸びるということである。一般にコピーは原稿そのものズバリと思っているが、和文・英文などのコピーではあまり目立たない。しかし枠内線引き原稿のコピーではサイズにもよるが310耗あたりで2耗の伸びが見られる。私も最初は気付かなかったが、細長く何段にも線引きしたコピーのチャンピオン紙にカーボンで複写して伸びることを知った。上段は原稿の通りに複写されているが、下へと複写してゆくにつれて線引きの間では複写の字体が上の方に書かれていたからである。試しに原稿からのコピーを順次原稿としてコピーを繰返したら、最終のコピーは元の原稿より一段も多いうりに伸びていた。機会があれば2万5千か5万分の1の地図をコピーされて貼合せられると道路や河川がかなりずれることに気付かれると思います。この伸びる原因は複写の原稿は上部ガラス面にセットをするが、コピーされる用紙は機械の中のドラムによって操作されるためである。



(0)

最近必要があつて志賀昆虫普及社へ同社のカタログにある軽便印刷器のうち活字押器だけご無理をお願いした。価格も予想以上だったが受取って見て驚いた。今まで私が見たり使ったりした活字押器は版組溝が長いものや短いものに巾が広いか狭いかが組合されて、その版組面積の違いでいろいろの種類に分けられていたが、外形はどれも本誌35号で図示したような長方形が規格であった。素材はすべて真鍮合金で熔接によって箱型に作られていた。しかし志賀昆虫普及社の新製品は原寸大で図示したようなシンプルで大変スマートなものであり、仕上げも大変良心的で使い易かった。素材は真鍮でその上にクロームメッキがされていて全体がピカピカに光っている。既製市販品の2号に当るようで7号活字(525ポイント)の4段組である。4.5ポイント活字の版組では紙一重の差で5段が組めず一寸残念だった。

(n)

ルーペ、ピンセット(先尖・先平・針押え)、台紙、アミール糊、無頭針、平均台、ハサミ、カッター等は机上での甲虫整理7つ道具である。私にはこの外にデータラベルの印刷・複製本や標本箱作りのための小道具が若干加わる。これらの小道具で使っていて気の付いた点と文房具店で見付けた新製品や日曜大工の小道具で本稿に少しでも関連すると思われる器具もとりあげて見たい。今回はその一端として述べてみる。

• **軽子** カルコと読む。今では余程の豪邸の建築現場でしか見られないと思うが、建前大工さんが使っているスミ壺の麻糸先に付いている鋼製の留針具である。昔はよく建築現場で大工さんが角材の端に軽子で糸を留め、スミ壺を手前に引いて材の上をスルスルと糸を滑べらせ、反対側の端で糸をピンと張って中心でつまんだ糸をはじくと、材の上には真直ぐな線が鮮明に印されていた。その形は一般に径1耗前後の鋼製の先端を非常に鋭く磨き尖らせた針様のものを、円筒木型(径10耗、長さ40耗位)の握り柄に取り付けた、牛乳ピンの栓抜きのみニ版である。時代もののスミ壺は骨董価値が充分で重宝されるのに、一方の立役者である軽子は案外軽視されているようだ。私は硬くて尖鋭な先端部で線引きや切断点の目印用に使用し、時には微小甲虫の整脚や触角の整形にも利用しており、大型や上翅の硬い甲虫の針穴用にも便利と思っている。価格も非常に安くて無頭針30本位の代価である。

• **定規** 幼い時から馴染んだ文房具でもあり、日常生活に欠くことのできない代物でもないが、どこ家庭でも2,3本は眠っていると思われる。150耗位から700耗位までのが一般的でプラスチック製が多く、ステンレス製もある。専門的に定規を必要とする人は別として、その精密密度に対しては一般的に関心がうすいようで、その反面300耗定規で測った長さは正確に300耗であると確信されているのが普通であるようだ。私も箱を作りかけたはじめの頃には何の疑いをも抱かずに目盛りで頼って、各片を断ち切って組合せた箱は、やや歪つてあつたが初作としては上々と満足していた。しかし数をこなして経験を積み要領が判ってきた段階で、どうしても歪つを直すことができなかったで、定規に疑問をもった。手許と勤務先での15~65種までの10数本の定規15・30・50種の目盛りはどうだろうかと比較して見た。結果は15種までだとその誤差は1耗以内であるが、30種の場合だと299,300,301,302(耗)とその誤差が30種で3耗もあることがわかり、その1耗目盛りにもかなりひどい相違があることを知った。又寸法目打ちも有り合せの筆記具を使うから、その印し方やその丸点の上・中・下での線引きも歪つになる原因だ

と知ったので、かなり精度の高いステンレス製の15・30種を各1本と軽子を買求めた。現在は
この歪つも相当是正できたと思っているが、私は測る時にはすべて0位から測り、中途の目盛り
からは測らないことにしている。30種以上になる場合は30種に0位を合せて測って、目打ちは
軽子で押し線引きが必要ならば軽子の先尖を使用することに決めている。

• **金尺** よく知っておられると思うがステンレス製のL又は逆L字型の大工道具の一つで1本
ぐらい手許に置いていてもよいのでないかと思われる。内角・外角とも直角なので、薄紙はもとよ
り原紙・ベニア板・プラスチック板・ポリエチレンフォーム等の断ち切りや角材などの隣面での目
打ち目印しには大変便利である。

• **エッチングペン** 私はこれまで厚紙・ベニア板・コルク・ポリフォーム等いろいろの物を
数多く断ち切ってきたが、今だに要領を得ず失敗の繰返しに始終している物にガラス板がある。勿
論一番安価な透明の並板だが、ガラス断ち切りには全く自信がなく、私製標本箱のガラス板はすべ
て本職のガラス屋さんに頼っている。丸い柄の先にクルクル廻る金属片がつき、その底部は四角形、
先の方は片三角形で、その内面中央に小粒のダイヤが施されているという。本職にかかると玩具を
操るようになっていとも簡単にガラス板が切られる。指定の寸法のやや内側に物指をあてて、ガラス切り
でスーと筋をつけ、右手でポキッと折る。又少しく厚手だと柄尻でボンと叩く。ガラスは魔術に魅
せられたのか、いとも簡単に2枚になった。私も大倉さん愛蔵のガラス切りを借りていたことがあ
る。ダイヤが金属片の中央にあるので端とのアロワンスを常に念頭においていなければならず、う
まい具合に筋がついて折る段になるとヒヤヒヤものである。果せるかな真直ぐに折れずに、手許の
僅かが筋通りの直線であとは筋を残して右に割れるか、時には筋をこえて左に折れる。なんとガラ
ス切りはむつかしいものだと思った。最近久方ぶりで大阪市内に出掛けた際、高島屋サンステー
アの店頭で見付けたのが「エッチングペン」である。いつか新聞誌上での発売広告を見た記憶して
いるが、まだ使っていない。三木技研工業株式会社製で特許製品と印され“超硬一筋・ユーザーと
共に”と印刷もされていて、効能書によるとタイル切り、ガラス切り、ケガキ針にと記されていて、
広く使用されているとも印刷されている。断ち切り・線引きともペンを45度角に立てて手前に引
くとあり、末尾に色々と研究してご使用くださいとあるので、次号に試した効能を書いてみる。

新入会員



方

復活



住所変更





一方

退 会



認 定 退 会



昭和54年度 収支決算書 (昭和54年1月1日より12月31日まで)

収 入 の 部			支 出 の 部						
会	費	1,526,900円	印	刷	費	1,098,550円			
バ	ク	代	通	信	費	188,070			
別	刷	117,600	消	耗	品	760			
寄	付	100,000	大	会	費	36,280			
函	鑑	税*	幹	事	費	460			
雑	収	入	雑	費	費	25,900			
仮	受	135,000	仮	受	金	引	当	金	135,000
預	り	500	預	り	金	引	当	金	500
前	期	繰	越	次	期	繰	越	金	854,747
	計	2,340,267		計				2,340,267	

※ 現在までに学会へ繰入れられた印税合計 1,818,853円

特 別 会 計 収 支 計 算 書 (会報発行基金)

昭和54年	1. 1	前期繰越金		957,634
	1. 20	45万円貸付信託収益金	(53. 7.20~54. 1.19)	9,097
	3. 26	金銭信託収益金	(53. 9.26~54. 3.25)	2,123
	5. 20	40万円貸付信託収益金	(53.11.20~54. 5.19)	8,086
	7. 20	45万円貸付信託収益金	(54. 1.20~54. 7.19)	9,097
	9. 26	金銭信託収益金	(54. 3.26~54. 9.25)	3,089
	11. 20	40万円貸付信託収益金	(54. 5.20~54.11.19)	8,086
	12. 31	次期繰越金		997,212

ご 投 稿 の お 願 い

第36巻から合併号をとりやめ、従来通り第1号と第2号の2冊を発行する準備を進めています。「昆虫学評論」表紙裏の投稿規定をご熟読のうえ、多数ご投稿くださいますようお願いいたします。特に新人の方々の投稿をお待ちしています。

なお、最近のご投稿の中で目立った誤りは次のようです。特にご注意ください。

- 1) 投稿規定の5。学名にはアンダーラインを引くとともに、命令者を必ず記入し全記してください。
- 2) 同6。Dateの記載は略記してください。例えばMaleは♂、AugustはAug.と略記のこと。
- 3) 同7。文献の巻号、頁数は規定のとおり略記してください。
- 4) 校正をお願いした初校で、文章をかなり訂正される方が時々あります。原稿は充分推敲のうえ、ご投稿くださるようお願いいたします。
- 5) 投稿は必ずタイプまたは自筆したものをお送りください。ゼロックスしたものご投稿は受領いたしかねますから、特にご注意ください。

第31～35巻の総目録について

標記総目録は次号(第36巻第1号)発行の際、一緒にお送りする予定です。お含みおきくださるようお願いいたします。

「昆虫学評論」バックナンバーの価格について

当学会報のバックナンバーの価格も若干改訂いたしたい所存でございますが、昭和56年12月末日までは従前通りにいたします。何卒この機会に欠号をお取り揃えくださいますようお願い申し上げます。

第1巻第1, 2号および第4巻第2号	全部で	300円
第6～10巻	}	5巻では各5,000円、第6-20巻では15,000円
第11～15巻		
第16～20巻	(各巻はそれぞれ1,000円)	
第21～25巻	(各巻はそれぞれ1,500円)	5巻では 7,500円
第26, 27巻	(各巻はそれぞれ2,000円)	} 5巻では 12,000円
第28, 29巻	(各巻はそれぞれ2,500円)	
第30巻	(3,000円)	
第31～35巻	(各巻はそれぞれ3,000円)	// 15,000円

送料はすべて無料(学会で負担)です。

—会費・昆虫学評論への投稿以外の雑事は後藤まで、ご照会をお願いします—

紡績とその川下のファッションから足を洗って全く関係のない職場にいます。住宅公団に
関係する協団地サービスに入り、大阪南支店に配属、下記に派遣されました。

大阪府南河内郡狭山町西山台5丁目2番10号(☎589)

狭山住宅管理組合 電話0723-65局-7657番
ヒロイナ

休日は日曜・祝祭日と第1・3の月曜日です。電話は午前9-10時、正午-午後2時、
午後4-5時まで在室し、他は敷地内に出掛けるため(採集ではなく、植栽関係と害虫駆除
と雑事のためです。)在室時をお願いします。

— 編 輯 を 終 え て —

先月の26日は寒い日でした(大阪は最高1.2度、最低-2.3度)。寒い上に強くて冷たい風が終
日吹き抜けて耳のちぎれる痛さを感じました。夜のテレビ放送の天気予報で翌朝は更に一段と気温
も低くなるとの予報を聞いて床につきました。27日の午前5時の我が家では外気に面するガラス
窓は氷のカーテンで、ストーブに火を入れると火の気に近いところから溶けはじめて、韓国京城龍
山の兵舎での零下26度の経験を思い出しました。

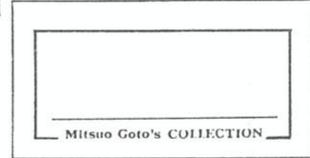
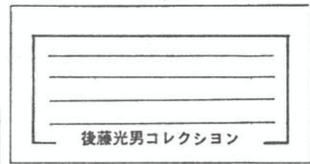
27日は予報の通り更にきびしくて(大阪は最高4.7度、最低-5.5度)、日本列島は北から南ま
で列島がオール氷点下に追いこまれ、八丈島も積雪2種だと新聞は報じました。狭山で玄関を水拭
きしていたオバサンの悲鳴を聞き飛んでゆくと、拭いたあとがすぐ凍りついていました。熱湯をぶ
ち撒くと湯気がなくなった所から又凍結する始末で、室内で14度を示した寒暖計は結氷の上の扉
に吊すと、目盛り零下5度を示しました。冷蔵庫の中に手を入れましたら大変暖かく感じました。
ここでもこの状態ですから北国の今年はどうなかと想像もできません。まして凍土下で越冬する虫
たちは日射しの軟かい春の訪づれを待ち焦がれていると思います。

やはり自然とは四季それぞれの気候に適した風情が欲しいと思います。冬は寒く夏は暑い。春は
夏への、秋は冬への萌しであって欲しいものです。ここ数年は暖冬異変とか熱帯夜とか聞き馴れな
い気象用語を耳にしましたが、今年あたりから自然の節理と法則に戻って欲しいものです。最も普
通であるセミが非常に少なく、少ないセミがジャンジャンと鳴き、秋を告げるセミが伴奏を入れる。
季節や気温に左右される産業がシーズンインと共にバーゲン商戦にしのぎを削るという悪循環に終
止符をうって、季節を告げる虫の姿を季節の花上で見たいものです。シーズンインと共に諸兄のご
健闘をお願いし、その成果を誌上に寄せられることをお願いします。(5103)

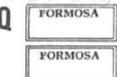
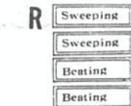
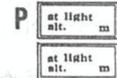
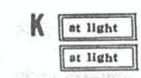
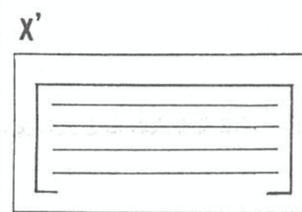
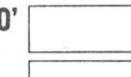
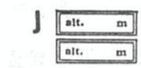
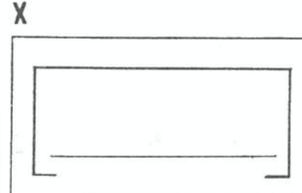
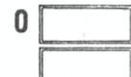
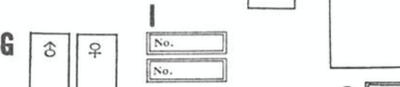
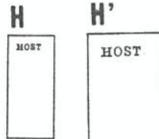
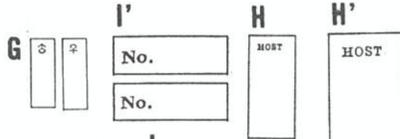
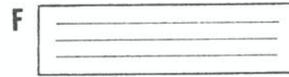
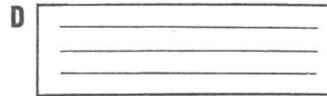
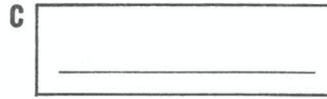
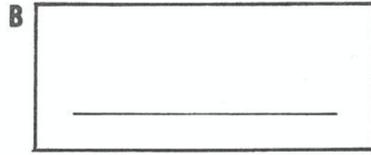
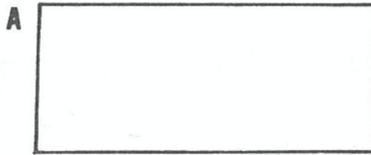
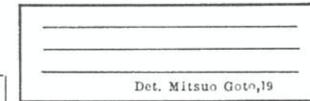
〈 標本用ラベル 〉 価値ある標本をより高く

参 考 品

Z X ラベルに欧文・和文刷込



Y 4.5 ポを中心としたラベル



G. (*Phelotrupes*) *oshimanus* ♀
FAIRMAIRE, 1895
Det. M. Goto, 1969
O. (*Gibbonthophagus*) *viduus* ♂
Harold, 1874
Det. M. Goto, 1969
A. (*Diapterna*) *trouitzi*
Jacobson, 1897
Det. M. Goto, 19
A. (*Oradulus*) *naraensis*
Nakane, 1956
Det. M. Goto, 1970
Rhyparus *amsinianus*
NAKANE, 1956
Det. M. Goto, 1970
Caelius *denticollis*
LEWIS, 1895
Det. M. Goto, 19

subsp. *fujianus*
M. GOTO'S COLLECTION NO. 19
M. GOTO'S COLLECTION
Mitsuo Goto's COLLECTION
Ryonan-Danchi, nr. Moru Osaka, 19
Mitsuo Goto leg.
Uenoshiba, nr. Moru Osaka, 19
Mitsuo Goto leg.
Nishiyama-Dai in Sayama New Town, Osaka, 19
Mitsuo Goto leg.

片数は1枚に対し、価格は1枚についてで送料は含みません。

A 属種用 (タイプライター印書可)	5片	15円	K 灯火採集表示用	120片	50円
B // (// 1本線入)	5片	15円	L トラップ採集表示用	60片	25円
C 属用 (科・族共)	8片	15円	M ベルレーゼ採集表示用	17片	5円
D 種用	8片	15円	N 樹皮下採集表示用	17片	5円
E 属用 (科・族共)	10片	10円	O 任意記入表示用	77片	20円
F 種用	20片	30円	O' 任意記入表示用	16片	15円
G ♂♀用 小形	♂♀各 14片	5円	P 灯火採集・高度表示用	24片	10円
G' ♂♀用	♂♀各 21片	30円	Q 台湾産標本表示用	50片	15円
H HOST用 小形	36片	25円	R スクイ網, タタキ網 採集表示用	B6片 B10片 15円	
H' HOST用	10片	5円	X 品名差用 (枠内白地)	3片	10円
I 番号用 小形	16片	5円	X' 品名差用 (線入り)	3片	10円
I' 番号用	16片	5円	CD 属種組合せ C 2片 + D 5片	7片	20円
J 採集高度表示用	32片	25円			

・ 別註ラベルのご要望もご相談下さい。

〈 見出し金具 〉 (品名差) > アルミ製 (釘付) > 25×50×0.6厚 (mm) 4つ穴 35円, 23×45×0.6厚 (mm) 2つ穴 30円

〈 ラベル印刷用 4.5 ポ活字セット 〉 現在揃セット 2組在庫があります。ご照会ください。

大文字: 母音各 30本, 子音 10~20本, 小文字: 母音各 30~50本, 子音 10~30本,

数字: 1・8・9各 50本, 2~7・0各 20~30本,

記号: ., -() ; ? 10~40本, ♂♀ 5本 (これのみ 6ポ),

コ ミ: 全角, 1/2, 1/3各 40本, 2号 4倍 8ヶ外 11種類,

器具: 活字ケース 1枚, 活字押器 (4段組か 5段組) 2本 ローラー 1ヶ, 印刷インク等すべて纏めました。

● 活字は標準セットの本数ですが、必要によって増えます。活字はその都度必要数を鋳造しますから 1か月後にお届けできます。